

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より「私らしく、そして貴方らしい生活の継続を豊かな心でゆったりと」利用者中心に地域性を踏まえ寄り添ったケアを理念に日々のケアに取り組んでいる。	○	地域を念頭に置いたケアサービスに取り組んでいるものの、これまでの理念に加えて更に地域との関係性を重視した内容で、本人・家族、訪れた人たちにも分かるような理念を作してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各館の見やすい場所に掲示してあり、理念についてのアンケート等を職員に実施するなどの意識付けを行っている。	○	地域を意識した理念の取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事や事業所の祭り等には、お互い交流の場を設けている。また、年1回地区の子供会が親も一緒に利用者と交流をしたり、ミニワークキャンプもしている。地域で運営している販売所にて買い物をしている。	○	地域との交流は年ごとに深くなり、職員が地区の事業によばれたり、地域の人々が来られることが多くなっているが、利用者が出かける事が少ない。今年は利用者を地区の観音祭りや福祉祭りに連れて行く計画がある。実行されることを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組んでいる。各館(ユニット)で評価することで、館(ユニット)によってできない項目がある場合は、意識して取り組むようにしている。		

宮崎県清武町 グループホーム太陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の概要、活動の報告、外部評価等について評価、要望、意見交換をしている。助言を受けて老健施設と共にホームの名前を入れた看板を設置した。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の担当窓口や地域包括支援センター等に電話や訪問等で地域密着型サービスとして連絡・連携を図っている。ケアマネ連絡推進協議会等で情報提供や意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	法人全体のサンヒルだよりで行事等を報告すると共に、職員の異動も個別に報告している。金銭管理では出納帳に家族のサインをいただいている。利用者の健康状態等については、面会時に話している。緊急時は電話やファックスで連絡をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回程度開催し、会長が用意した出欠表に意見を記入するようにしている。気づき箱を設置し、窓口も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できるだけ固定の職員でローテーションが組めるようにしている。異動や離職があった場合は、認知症介護ができる人材を採用している。本年度から、新人職員の研修カリキュラムを導入している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度から中堅職員・新人職員の研修カリキュラムを導入した。また、併設の老健施設と合同の研修・勉強会には非常勤職員も参加し、母体の病院院内研修等にも参加できる機会を設けている。グループホーム連絡協議会の勉強会には、分担して参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな研修の機会やグループホーム連絡協議会のブロック研修での交流の場があり、意見交換を行っている。昨年は、職員全員が他グループホーム11か所の見学を行い、報告書を基に業務改善に取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族がホームを見学し、本人が納得した上で利用開始をするようにしている。不安のある利用者には慣れるまで、家族が宿泊できることを伝えている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付けを見てもらったり、調理方法を聞いたり、昔の生活習慣を聞くなど、協働しながらの穏やかな生活の様子がうかがえた。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の来訪時や日々の会話の中から、本人や家族のニーズを把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	生活歴を考慮し、理念にあるように本人が自分らしい生活が継続できるように、また、よりよい生活の維持を目標に、本人や家族の希望を取り入れた介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画を見直し、6か月ごとにカンファレンスを行い、参加できない職員は意見書を提出し、新しい介護計画を作成している。状態変化のある利用者については、その都度介護計画の見直しを行い新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算による看護師の配置、及び各館1名の看護職を配置している。受診困難な利用者や対応困難な家族については、臨機応変に職員が対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族が希望する掛かりつけ医となっている。歯科受診については、家族の同意を得て訪問診療をしてもらい、緊急性がある場合は、事前に同意を得た協力病院での対応が可能である。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は重要事項説明書に記載されており、利用同意書により同意を得ている。また、掛かりつけ医との連携ができるような体制になっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者になじみのある名前呼び、さりげない言葉かけや対応がうかがえた。 個人記録に関しては、イニシャルや番地名で記入するなど個人情報の取り扱いには気をつけている。	○	食事の介助や誘導の場面では、さりげなくやさしい声かけがなされていたが、利用者に応じた声かけの仕方を今後の取り組みの課題としているので、実践されることを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな日課、あるいはタイムスケジュールは存在するが、本人の意思や希望等に合わせ、その都度支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味付けや配膳など、食事の準備や後片づけは、利用者と職員と一緒に協力しながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	しゅう恥心のある人など、同性スタッフが介助を行っている。基本的に拒否のある人は無理に誘導せずに、入りたい時、好きな時間に入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族会、ドライブ、誕生会など楽しんでいたくように配慮し、日常的には、洗濯物たたみや食器洗いなど、他利用者やスタッフと会話を楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	帰宅願望がある人は、スタッフが個別にドライブに連れていくなどしている。また、日常的な買物、ドライブや食事に連れていくなどしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は全てのカギを開放している。玄関を出ると格子戸があり、利用者でもはずせる簡易な造りとなっている。中央館の裏庭には自由に出入り展望台もあり、利用者が自由に草取りなどされている。		

宮崎県清武町 グループホーム太陽の丘

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練を実施している。地域協力体制については、自治会、運営推進会議で協力を呼びかけている。非常用食品等は隣接の老健施設にて保管されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人ファイルに1日の食事摂取量が記載してある。水分は、食事やお茶の時間(10時・15時)・入浴後などに確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いろいろのある談話室や廊下、浴室など快適に過ごせるように工夫されている。共用の空間には季節の行事に合わせ、利用者と職員が一緒にかざりつけた作品がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの生活用品や仏壇が持ち込まれ、落ち着いて過せる部屋となっている。また、家族の写真が壁一面に貼られ、家族とのつながりを感じるような部屋も見受けられた。		

※  は、重点項目。